

## ワークショップ1

## 国際協力の現状と人材確保

柴田玲子(日本赤十字社血液事業本部)

## 【はじめに】

血液事業における国際協力のあり方は、「各國政府の責任のもと、自発的無償献血を推進し、献血者と受血者の健康を保護し、血液製剤の国内自給達成を目指すことを基本理念としている。相手国における自発的な無償献血の推進、献血者の安全確保、安全で高品質な血液製剤の調製およびその安定的な供給体制の整備ならびに適切な輸血療法の普及等に向けた協力を事業内容とし実施する」としている。

ラオス赤十字社への支援は1995年から2003年までの第一期、2012年から2017年までの第二期の支援を実施した。この度、献血・採血担当としてラオス血液事業の品質保証機能と運営能力強化

に関わる機会を得たので第二期の支援を中心に報告する。

## 【ラオス人民民主共和国の概要】

図1。

## 【ラオス人民民主共和国の血液事業の状況】

図2, 3。

## 【ラオス赤十字社支援事業】

第一次支援：1995～2003年述べ11名の専門家の長期派遣による技術支援を展開し、首都における献血率100%を達成、コストリカバリー制度を導入した。

人口：約675万人(千葉県：625万人(2017))  
 面積：約24万km<sup>2</sup> (本州とほぼ同じ)  
 宗教：仏教(国民の約75%)  
 地勢：高地が国土の80%  
 農用地は全土の9%  
 気候：雨季(5～10月)  
 乾季(11月～4月)  
 民族：ラーオ族ほか、計49の民族  
 産業：労働人口の約7割が農業従事  
 鉱物資源(銅、金等)、水力  
 発電：部門GDP；農業(17.3%)  
 工業(36.7%) ラオス統計局  
 外務省 在留邦人；812人

平成29年要約版



図1

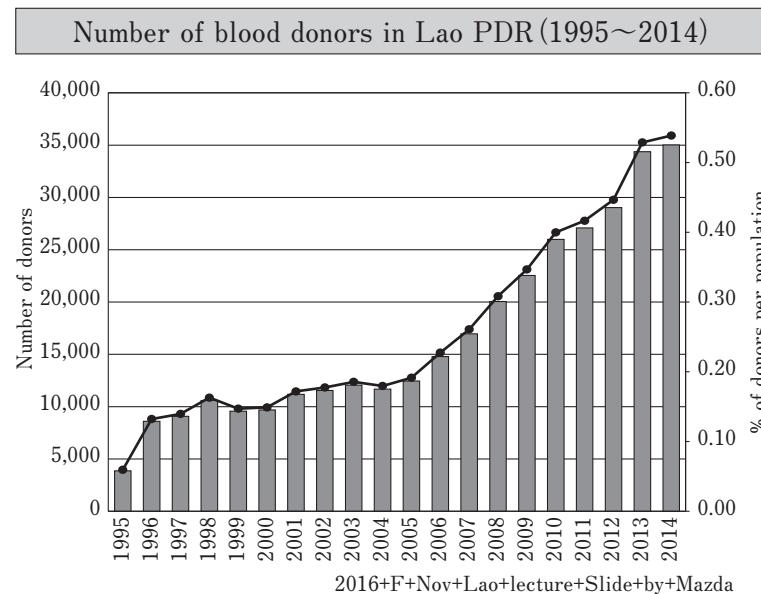


図2 ラオス人民民主共和国の献血状況

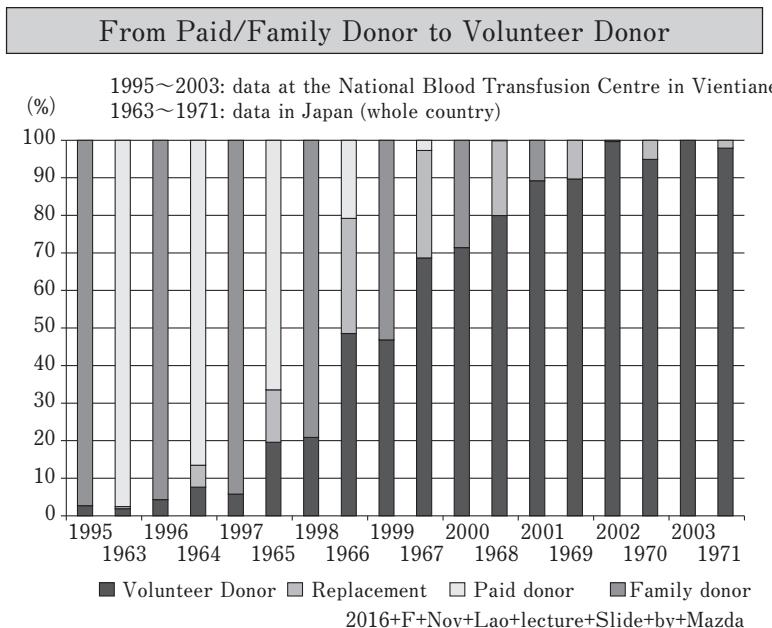


図3 ラオス人民民主共和国の献血状況

第二次支援：2012～2017年ラオス赤十字血液センターの「品質保証機能と運営能力強化支援」の依頼を受けて技術要員を派遣し、基準書・SOPの作成、教育訓練の実施、SOP導入後の自己点検実施体制および業務運営機能体制を構築した。この期間の派遣者は医師2名、採血、検査、製剤の技術者8名である。

### 【第二次支援状況と結果】

現地視察をもとに、各種基準書、採血、検査、製剤・供給のSOPおよび確認用チェックリストを作成し、全国研修会を開催した。献血、採血部門のSOPの作成はラオス赤の主体性を尊重しながら、実施している手順をSOP化することから始め、品質に関わる採取量、採取部位の消毒や、効率的な検体採取、採取バッグのセグメント作成、原料血液および検体の搬出等の手順についてアドバイスを行った。17県の代表者は全国研修会に参加し自センターで教育担当者として、SOPの導入に携った。SOPの導入状況は各センターの自己点検結果および業務査察で確認した。ラオス中央血液センターを本部とし、3地域センター（北部、中部、南部）と13地方センターで組織され、本部が地域センターを、地域センターが地方センターを確認する体制を構築し運営機能強化を図った。ラオス支援事業評価項目として、基準書およびSOP、教育訓練用DVDビデオやチェックリスト、ワークショップに受講後の教育訓練について業務査察で確認した。

支援事業達成度は20%間隔の5段階で評価しほぼすべての項目において導入前の20%から60%にアップすることができた。しかし、成分輸血療法の普及活動は病院医師および病院関係者対象の説明会は2回実施に留まった。

### 【ラオス支援の課題】

日本赤十字社血液事業本部は技術援助を基本とし国際協力支援をしているため、資機材や試薬類

の不足からSOP等には制限が生じることがある。安全な技術の導入や献血者の安全確保には資機材や試薬類の整備資金やメンテナンス等の援助も必要であると考える。

### 【求められる看護師と課題】

日本赤十字社の職員として、Mission statementを念頭に、採血事業を熟知しており、必要としている知識、技術を相手国の状況を理解し伝えることができる。そのためには、語学力も必要な要素であるが、コミュニケーションスキルを向上させることが最も重要である。今後は、人材確保、人材育成そして長期間出張可能な体制の構築を目指したい。

### 【まとめ】

日本赤十字社は、日本で唯一献血の受付から医療機関への供給を行っている団体である。アジア・太平洋地域の赤十字・赤新月社から研修生を受け入れ、血液事業の幹部職員を育成し、母国の活動促進に貢献している。品質管理や技術面に焦点をおきながらアジア地域における血液事業の発展と協力関係の強化を図っている。

我々血液事業に従事する看護師も、支援を必要としている人、国々に今まで培ってきた経験、技術、知識を伝え引継ぐ義務がある。そのためには、多角的な業務のスキルを身につけた職員を育成し支援に参加することや、研修生の受け入れに積極的に関わることは看護師自らのモチベーションやスキルにつながる。

また、海外支援に従事する職員は事前教育の充実と職場の支援体制が重要で、派遣期間中は安心して海外支援に専従できる体制の構築を切望する。

今回私が経験したラオス血液事業の支援は諸先輩方とラオス赤十字の皆さんが築いてきた20年間に基づいている。このような貴重な経験ができたことに感謝とともに今後も友好関係、支援が継続されることを願います。